

特集 開館50周年を記念して



開館当初の遠山記念館全景

開館50周年を迎えるにあたって

理事長 遠山公一

昭和43年(1968)に財団法人遠山記念館を設立した遠山元一(日興証券・現SMBC日興証券創建者)は、その2年後、昭和45年(1970)5月10日に美術館・遠山記念館を開館した。

元一は長野県安曇野市の碌山美術館建設を援助した際に、その建築家であった今井兼次を知り、今井に遠山の美術館建設を依頼することになる。その美術館開館時、元一は81歳であった。

開館時の招待者リストを顧みるならば、そこに極めて多数の美術館館長、美術史研究者の名前を見出す。初代館長の^{あたらしきくお}新規矩男(東京藝術大学教授)はいわずもがな、戦前から日本の美術史研究並びに美術行政の基礎を作った矢代幸雄や、のちに3代目館長となる友部直^{なかし}、現評議員でもある高階秀爾氏らの名が連なる

一方、元一が身を置いた兜町の証券界の関係者はおもいもかけず少ない。

累年わが国の学術界、ならびに社会福祉事業に微力をささげてまいりましたが、このたび前記の家屋および永年にわたり、私の蒐集した美術品とを、徒らに私有私蔵すべきではないとの観点から、これ等を一般に公開、財団法人を設立して今日貴重になった純粋な日本建築の永久保存を図ると同時に広く県民の文化向上と美術、工芸、建築方面の研究参考資料に供し、ひいては教育の振興の一端になおうとするものであります。

元一が認めた財団開設の趣意書に含まれた一文である。

ここには、設立の意図を学術・教育目的とし、美術工芸品・建築物を「徒らに私有私蔵すべきではない」とはっきり謳われている。

元一はその2年後に亡くなり、次代記念館理事長を、音楽評論家であり後に文化功労者となる遠山一行が務めることになる。一行は、遠山音楽財団、後の日本近代音楽館を開設するなど音楽関係の資料保全に努める傍ら、記念館に関わった。

三代目に相当する現理事長の代に、公益財団法人化がなった。近年には、今井建築の美術館内部の展示環境を刷新する。そして何よりも、平成30年(2018)5月に、旧遠山家住宅9棟が国の重要文化財に指定される。

このように、遠山記念館では元一が蒐集した美術品および遠山邸の保存・修復・研究・公開に努め、さらに刷新・発展を目差してきたことは、財団法人開設時に表明された創立者の遺志を受け継ぐことに他ならない。と同時に歴代の美術館館長ならびに学芸・事務の努力、そして埼玉県や川島町の行政を始め、外部の多くの理解者の存在を忘れてはならない。特に住宅の重要文化財指定については、京都大学名誉教授の宗本順三氏らのご協力の賜物であったし、ここに改めて深謝する。と同時に、SMBC日興証券株式会社、グローブシップ株式会社、遠山偕成ホールディングス株式会社による常なるご支援に感謝する。さらに友の会に御参加下さる多くの皆様に篤く感謝申し上げたい。

この春に遠山記念館では、当館の所有する重要文化財および旧法に基づく重要美術品を一同に集めた特別展※、およびコレクション展、さらに秋には皇室の美術という特別展をも準備し、当館発足50周年を祝う展覧会をささやかに開く予定にしている。

現理事の私は、美術史研究者として、さらなる努力を続けることをここに明記したい。振り返れば、往時11歳であった創立者元一の孫は、開設記念のテープを切った。皇族の列席にもかかわらず、祖父の促しを力にテープを切った時のことをまざまざと思い出す。

※会期を変更いたしました。



開館式典で挨拶する遠山元一



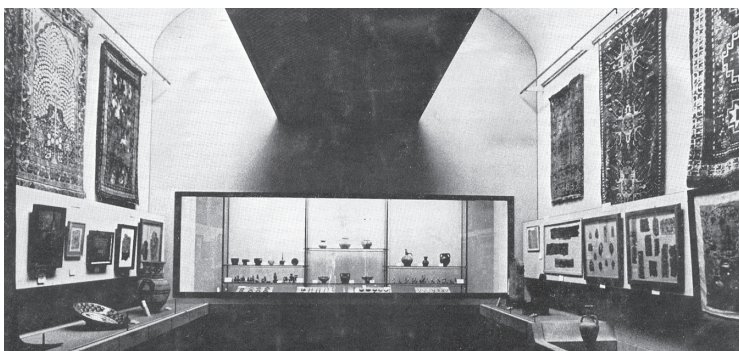
三笠宮殿下に御来館を賜る



開館のテープカット



今井兼次設計になる美術館



美術館にて「開館記念特別展」を開催した。オリエント美術の展示風景

遠山記念館の50年

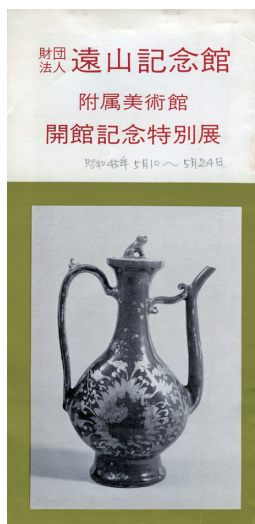
依田 徹

はじめに

私立美術館はそれぞれ異なる事情で設立されるもので、その活動も多彩である。2020年に開館50年を迎えるにあたり、遠山記念館におけるこの半世紀前後のあゆみを振り返ってみたい。

1 美術館の開館

設立者である遠山元一にとって、川島の遠山邸は母の思い出の残る本邸であり、実弟・芳雄^{よしお}の残した唯一の作品であった。その遠山邸の保存と公開を目的に、財団法人遠山記念館を設立したのが1968年のことである。財団設立に合せて構想されたのが、蒐集していた美術品を展示するための美術館の建設であった。元一はその設計を、かねて援助した礫山美術館（長野県安曇野市）を担当した今井兼次に依頼する。瓦屋根に土蔵を思わせる白塗りという和風の外観、フレスコ画やドアノブなどに豊かな国際色を漂わせた内装という、今井建築の集大成となる建築が竣工したのが1970年。初代館長には東京藝術大学で西洋美術を教えていた新規矩男を招き、5月10日に遠山記念館は開館した。以来、日本東洋の古美術、オリエント美術やアンデス美術など、多彩なコレクションを公開する展示を続けている。



遠山記念館開館記念特別展パンフレット

2 流政之「美以子石」「愛子石」

美術館としての遠山記念館には、他のコレクションとはまた異質の現代彫刻作品もある。その一つが中棟前の芝生の庭園を横切る溪流の対岸、砂地となっている区画に設置された「美以子石」「愛子石」である。



流政之「美以子石」「愛子石」

作者の流政之^{ながれまさゆき}は、第二次世界大戦下で特攻隊員となるものの出征前に終戦を迎え、戦後はアメリカへ渡って活動して「サムライアーティスト」の異名で知られている。そんな流と親交のあった二代目理事長・遠山一行が、自らの祖母と母をテーマにして制作を依頼したのが、この石彫作品である。

制作が依頼されたのは美術館開館前の1965年頃とされ（『遠山元一と近代和風建築』所収聴き取り）、流の作品集“NAGARE the Life of Samurai Artist”（Weatherhill, 1994）では制作年を1966年としている。

その設置に流が訪問した際、流は元一に「おやじさん、自分で置いてごらんさい」と作品の位置を元一に決めさせようとしたという逸話も伝わる。最終的には流が自ら場所を決め、またこの時に中棟庭園の飛び石も打ち直された。このため中棟庭園は、流の作庭という側面を帯びることとなった。

3 染織コレクションの拡充

開館以降も、遠山コレクションは拡充が続いている。折に触れた購入、それ以上に様々な寄贈品のお蔭である。中でも遠山コレクションの重要な特色が染織作品の多様さであり、それを方向付けたのが山邊コレクションの寄贈であった。

山邊^{やまのべともゆき}知行は東京国立博物館の初代染織室長となり、美術史の立場から染織作品を研究し、染織を美術工芸の一ジャンルとして確立させた功労者として知られる。1977年の新規矩男の急逝を受け、1978年に2代目館長に就任。以後、14年に渡って遠山記念館の運営に当たっている。



二代目館長 山邊知行

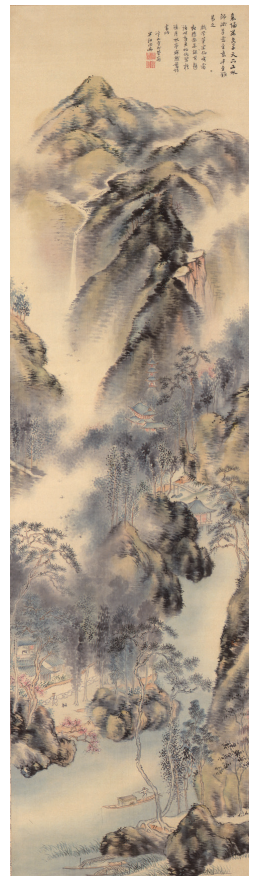
遠山コレクションの染織作品の中核となっているのが、高島屋美術部の重鎮であった川勝^{かわかつせいいち}聖一のコレクションである。岡田三郎助の旧蔵品を含む優れた内容で、その購入を元一に勧めたのが山邊であった。山邊自身も染織研究のための膨大な資料を蒐集しており、コレクションの全容は『山邊知行コレクション』（全7巻、源流社）にまとめられている。山邊コレクションは1996年から三次に渡って寄贈され、当館の名品として人気を博している「立雛（次郎左衛門頭）」などが含まれている。この山邊の名声もあってかその後も染織作品の寄贈は多く、美術館業界でも特筆される、多種多様な染織コレクションが形成される結果となった。

4 「春鶯起鴉図」「布晒舞図」の重要文化財指定

美術館コレクションを評価する重要な基準の一つが、国宝、重要文化財を含む、指定物件の件数である。遠山コレクションの中では、戦前に「佐竹本三十六歌仙絵」が国宝（旧国宝）に指定されていた。指定は遠山邸新築記念園遊会直前の1936年5月のことなので、自邸に国宝を飾りたいと考えた元一が働きかけた可能性がある。しかし1950年に文化財保護法が施行されたことで、旧国宝は一律で重要文化財へと移行。1959年には「寸松庵色紙」、源頼朝「書状」、「秋野蒔絵手箱」の3件が重要文化財に指定され、記念館開館時の重要文化財は4件となっていた。

開館9年目の1979年6日6日、岡田半江「春鶯起鴉^{しゅんあい き あ}図」が新たに重要文化財へと指定された。このことは埼玉新聞等で報道されて県内の注目を集め、公開時には一目この作品を見ようと多くの方が押しかけ、入場制限まで行われたという。さらに2008年7月10日には、英一蝶「布晒舞図」が重要文化財に指定されている。戦前より一蝶の代表作として特に著名であったため、未指定であったことに驚かれる方もいたとのことである。

なお、現在馴染みのない指定に「重要美術品」があり、当館では現在9件の重要美術品を所蔵している。海外への文化財流出を防ぐ目的の国宝に準ずる指定で、1933年の「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律施行規則」によって制定され、以後約8,200件が指定を受けている。同法は文化財保護法の施行によってなくなるものの、現在も指定は残されている。



「春鶯起鴉図」

5 現代美術の展示

遠山記念館の活動の一つの特色となるのが、現代美術展の開催である。その最初のきっかけは、2000年4月に、三代目理事長・遠山公一の発案で「ジェームス・リー・バイヤーズ展」を開催したことである。日本文化から多大な影響を受けたとされるバイヤーズは、遠山邸の床の間に球状のオブジェを配置する展示計画を作成。準備中の1997年にバイヤーズが死去するという不運にみまわれたため、この2000年の展示は、作者の残したプランを基に開催に漕ぎつけた、一種の遺作展に位置付けられる。



長澤英俊「夢うつつの庭」

2009年7月には、長澤英俊の個展「NAGASAWA IN KAWAJIMA〈夢うつつの庭〉」を開催。長澤は川島町出身で、ミラノを拠点に活動していた。この時には日本に長期滞在し、記念館の敷地で制作を行い、遠山邸と庭園に10点の作品を展開させるという、大規模なインスタレーション展示を行った。現在も遠山邸東棟の居間に敷かれ、来館者の目を驚かせている不規則な畳は、この時の長澤の作品の一つ「浮島」である。

さらに2016年7月には埼玉県立近代美術館と共同でドイツ在住の彫刻家である「竹岡雄二 台座から空間へ」を開催した。竹岡雄二は台座などの展示装置を彫刻作品にするという独自の作風で知られ、遠山記念館では6点の作品を邸宅庭園に設置することで、逆に遠山邸を一つの造型作品として浮かび上がらせるという、独創的な展示とした。

6 邸宅の重要文化財指定

2018年には、かねて課題となっていた美術館の改装を完了、展示ケースを入れ替えるなど展示環境を刷新した。同年4月1日に、美術館リニューアル公開を開始するが、この年にはもう一つ大きな朗報が届いた。遠山邸の重要文化財の指定である。

遠山邸の文化財的評価に関する記念館側の動きとしては、2011年に「遠山邸研究会」を発足。建築に関わる各分野の講師を招いて講演を願い、多角的な視点から遠山邸の建築的価値を見つめなおす試みを続けていた。また2015年には埼玉県が国庫補助事業による県内の近代和風建築の委員調査を開始し、その報告書において遠山邸は極めて高い評価を受けている。そして2018年5月18日に遠山邸の文化財指定が文部科学大臣に答申され、全国のニュースで紹介された。正式な指定は同年の8月17日で、指定名称は「旧遠山家住宅」であった。

その記念事業として、記念館では2019年4月28日にはウエスタ川越において記念シンポジウムを開催。評議員の高階秀爾氏（大原美術館館長）や邸宅の調査報告書作成を担当した矢ヶ崎善太郎氏（大阪電気通信大学教授）、小出祐子氏（大阪芸術大学非常勤講師）を招いて講演をいただき、また宗本順三氏（京都大学名誉教授）を司会とする討議を行った。



記念シンポジウムでの討議の様子

美術館とは、美術品や文化財を未来の人類へと伝えるための施設である。これからの50年、遠山記念館はその務めを果たせるよう努力していきたい。

2020年 前期の展覧会

(お知らせ)

遠山記念館ホームページなどで先行してお知らせをしていました本年前期の展覧会スケジュールは、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、以下のように変更いたしました。

- ・4月1日～5月24日「遠山記念館の50年」の特別展は開催を延期し、2021年4月3日～5月30日に行います。それに伴う講演会の予定も来年に再調整をします。
- ・4月10日より臨時休館をしております。遠山邸と庭園の公開を再開できるように状況が変化しましたら、ホームページでお知らせいたします。
- ・6月6日～9月22日は「コレクション展1」の開催を予定しております。会期変更の可能性もありますので、ホームページや電話でご確認ください。
- ・入口受付にアルコール消毒液を用意していますので、ご利用ください。館内で職員はマスクを付けて対応させていただきますが、お客様ご自身もマスクを着用されるなど感染予防にご協力ください。
- ・しばらくの間、日曜日の学芸員邸宅案内、ボランティアによる邸宅ガイドなどは休止させていただきます。

コレクション展1

6月6日(土)～9月22日(火・祝)

日本美術から中国美術、オリエント美術、アンデス美術と、幅広いコレクションを所蔵する遠山記念館のコレクションの中から、上村松園「むしの音」、古代エジプトのファラオの姿を象った「王座像」をはじめ、各分野の優品を選んで展示いたします。



王座像 エジプト



加彩人形把手付壺 ペルー

上村松園「むしの音」(展示期間：7/12～8/23)

2020年 前期 遠山邸2階 特別公開日

5月23日(土)、6月20日(土)

午前11:00～午後3:00

遠山邸2階の和洋折衷の洋間応接室、寝室、及び12畳間座敷の特別公開を、上記の日程で行います。アールデコの照明具や、オパールガラスが作り出す昭和モダンのデザインと、伝統和風建築の意匠が違和感なく融合されていて、上品で独特の雰囲気が感じられます。2度目、3度目の方も、気付かなかった新しい発見があるかもしれません。



特別展予告

「近代の皇室と茶の湯」

10月3日(土)～11月23日(月・祝)

明治維新以降、多くの文化が変化を見せましたが、その中に茶道があります。特に皇室との関係に注目すれば、江戸時代に宮中行事であった「口切り茶」がなくなる一方、近代の東京では宮家が茶道界で重要な位置を占める状況が生まれました。そして昭和に入ると、大正天皇妃であった貞明皇后が青山御所に「秋泉御茶室」を作り、昭和13年には満州皇帝溥儀を招くという、特殊なお茶会も催されました。本展では皇室に関連する茶道具を集め、特に戦災で失われた貞明皇后の茶道具について、献上作と同時に作られた「控え」などから紹介いたします。

撮影：松永直子



大國栢斎「誉れの茶釜（秋泉御茶室用）」 個人蔵



久世久宝「色絵金彩桐竹唐草文天目（秋泉御茶室用）」
一瀬小兵衛「掬梅天目台（秋泉御茶室用）」 個人蔵



「菊木賊時絵中棗」 個人蔵



有栖川宮熾仁親王「赤楽茶碗」 個人蔵

「遠山記念館 友の会」入会のご案内

「遠山記念館 友の会」は、遠山記念館を何度も訪れたいという方や、邸宅・庭園および美術館の活動やイベントに積極的に参加したいという方のための集まりです。皆様のご入会をお待ちしております。

- 会員特典**
1. 会員証の提示により、同伴者1名様まで年間何度でも無料でご入館いただけます。
 2. 展覧会やイベントなどを掲載した「遠山記念館だより」をご送付いたします。
 3. 次の有料イベントへのご参加が無料となります。
 - ・建築の専門家による講演会「遠山邸研究会」
 - ・当館コレクションについて外部研究者にお話をいただく「講演会」
 - ・当館学芸員の研究テーマをわかりやすく解説する「土曜講座」
 4. 当館主催のお茶会(雛祭りの茶会、端午の節句茶会等)の席料が半額となります。
 5. 当館の出版物、ミュージアムグッズを2割引でお求めいただけます。

年会費：3,000円 有効期間：入会日より1年

申し込み方法

同封の入会申込書に必要事項をご明記の上、遠山記念館までご郵送、もしくはFAXをお送りいただくと共に、同封の払込取扱票に、住所・氏名・電話番号をご記入の上、年会費3,000円の払い込みをお願い致します。

ご入金の確認後、追って会員証を送付いたします。会員証の送付を以て領収書に代えさせていただきます。ご利用の有無に拘らず、会費の払い戻しはいたしません。

送り先：〒350-0128 埼玉県比企郡川島町白井沼675 公益財団法人 遠山記念館 担当 松村
TEL：049-297-0007 FAX：049-297-6951

利 用 案 内

◇入 館 料

本年4月より、入館料をそれぞれ値上げさせていただきます。何卒ご理解のほどお願いいたします。

期 間	一 般	学 生
特別展	1,000円	800円
通 常	800円	600円
邸宅庭園のみ公開時	600円	400円

※中学生以下は無料、団体20名以上は2割引となります。

◇開 館 午前10:00～午後4:30
(入館は午後4:00まで)

◇休 館 日 月曜日(祝日の場合は開館、
翌火曜日休館)

◇邸宅・庭園の公開、展覧会開催についての
詳しい情報は下記をご覧ください。

URL <http://www.e-kinenkan.com>



電車・バスでのご来館の場合

- 東武東上線・JR埼京線 川越駅
 - 西武新宿線 本川越駅 ●JR高崎線 桶川駅
- いずれも「川越駅-桶川駅」間の東武バスで
牛ヶ谷戸下車、徒歩15分

お車でのご来館の場合

- 圏央道川島ICより7分
- 川越方面から国道254号線の宮元町交差点を川島方面へ右折、釘無橋を渡り最初の信号を左折、案内板に従って約10分

遠山記念館だより 第58号

2020年4月 発行

編集発行 公益財団法人 遠山記念館
編集担当 久保木彰一

〒350-0128 埼玉県比企郡川島町白井沼675

TEL 049-297-0007
FAX 049-297-6951